

令和3年度第5回 感染症発生動向調査部会  
議事要旨

1 日 時 令和3年8月18日（水） 14:00～

2 場 所 岐阜大学医学部本館 1階 小会議室（岐阜市柳戸1-1）

3 出席者

委 員：馬場 尚志（岐阜大学医学部附属病院 生体支援センター センター長）  
大西 秀典（岐阜大学大学院医学系研究科 小児科学 教授）  
澤田 明（岐阜大学医学部附属病院 眼科 臨床准教授）  
加藤 達雄（国立病院機構長良医療センター 呼吸器内科統括診療部長）  
石山 俊次（石山泌尿器科皮膚科）  
オブザーバー：小山 静代（岐阜市保健所 感染症対策課 感染症対策係長）  
事務局：山田 涼子（感染症対策推進課 技師）  
今尾 幸穂（保健環境研究所 疫学情報部長）  
岡 隆史（保健環境研究所 主任専門研究員）

4 議 題 （進行：加藤委員）

- （1）前月の感染症発生動向について
- （2）検討すべき課題について
- （3）情報提供（月番委員専門分野から）
- （4）その他（感染症対策推進課から）

5 議事要旨

【前月の感染症発生動向について】

- ・事務局からの説明は資料のとおり。
- ・月番委員のコメントについては資料のとおり。

【検討すべき課題について】

○RS ウイルス感染症について  
（事務局から）

岐阜県における定点当たりの報告数は第28週以降減少し、第31週の時点で1.89まで下がった。まだ県内において報告数の高い地域もあるが、今後減少していくものとして、モニターを続けている。

（委員から）

- ・報告数は減少傾向だが、その規模は例年の流行期と同定程度であることから、まだ高い状態だと思える。
- ・沖縄県など、他県での同感染症の発生動向をみると、だいたい3か月程度で流行が収まる傾向がみられる。また海外のデータからも同様の傾向がみられる。そのため岐阜県内における同感染症の流行が、現在減少傾向にあることは間違いないだろう。

## ○性感染症定点の変更について

(事務局から)

県内 15 か所の性感染症定点については、各地域での感染症の状況が偏りなく反映されるよう、これまで何度かその見直しが行われてきた。現状において、岐阜及び西濃圏域とその他の地域とで発生報告数に差が大きいこと、感染症によっては時に全国の集計結果と傾向に相違点が見受けられることなど、データに偏りが生じている可能性も考えられる。そのため今後当部会にて、定点の変更が必要であるのか、また必要な場合はどのように定点を変更するのが良いかご検討いただきたい。

(委員から)

・まず現状で何が問題であるかということを確認にすることが第一ではないだろうか。例えば全国データとの相違点を課題とするのであれば、全国データを参考にした定点の選定を行うことが良いと思う。それとは別に県内の地域毎での問題ということであれば、各地域の現状（例えば人口割合など）を考慮した定点の選定を行うのが良いのではないか。

・様々なデータを揃え、今年度の当部会にて検討を続けていけば良いと思う。

### 【情報提供】

・新型コロナウイルス感染症における中和抗体薬「カシリビマブ及びイムデビマブ」の承認について

### 【その他（感染症対策推進課から）】

・腸管出血性大腸菌感染症に関する注意喚起について